

平成 28 年度 第 1 回 国立市地域公共交通会議

議 事 録

■日 時 平成 28 年 4 月 8 日 (金) 午後 1 時 30 分から 3 時 10 分

■場 所 国立市役所 3 階 第 3・4 会議室

■出席者

国立市地域公共交通会議委員 15 名

会長	岡 村 敏 之	学識経験者
副会長	佐々木 一郎	都市整備部長
委員	今 野 浩 児	一般乗合旅客自動車運送事業者の代表者
"	佐 藤 祐 浩	"
"	田 崎 達 久	"
"	小 池 毅	一般乗用旅客自動車運送事業者の代表者
"	原 田 弘 司	"
"	清 水 光 司	"
"	藤 木 仁 成	都道管理者
"	佐 伯 喜重郎	市道管理者
"	石 坂 友 則	警視庁立川警察署
"	高 橋 正 雄	公募による市民
"	三 好 幸 雄	"
"	熊 井 大	"
"	池 田 洋 介	"

(敬称略)

事務局	4 名	都市整備部交通課交通係
-----	-----	-------------

(欠席)

委員	尾 崎 行 雄	国土交通省関東運輸局
"	鵜 澤 健 一	一般旅客自動車運送事業者労働組合

■議事録

1. 開 会（事務局）

【事務局】定刻になりましたので、これより平成28年度第1回国立市地域公共交通会議を開催いたします。年度が改まりまして、関東運輸局東京運輸支局の石川委員が尾崎委員に交代されました。また、立川警察署、佐藤委員から石坂委員にかわられました。なお、本日、尾崎委員、鶴澤委員から欠席の連絡をいただいております。また、事務局も異動がございまして、係長の佐藤のかわりに都市整備部主幹、蛸谷（えびや）でございます。また、増員ということで主事の高橋が着任しました。委員の半数以上が本日出席しておりますので、本日の国立市地域公共交通会議は成立となります。なお、本年度よりホームページに掲載させていただく議事録につきましては、市の審議会等の指針が変わりまして、各委員のお名前を掲載させていただくことになりましたので、ご理解、ご協力をお願いしたいと思います。それでは、岡村会長、進行をお願いいたします。

【岡村会長】それでは、皆様、よろしく願いいたします。ではまず資料の確認をお願いいたします。

【事務局】（資料確認）

【岡村会長】それでは、報告事項から、上から順にご説明をお願いいたします。

2. 報 告

（1）国立市コミュニティワゴン試行運行利用状況について

【事務局】（参考資料1で国立市コミュニティワゴン試行運行「くにっこミニ」の利用状況を報告：2月1日から矢川駅発着の30分間隔にダイヤ改正をした青柳ルートは利用が伸びつつあり、3月の利用者数1,327名で一日当たり51人。矢川駅から緑川地域を回って、また矢川駅に戻ってくるころの利用が多い。泉ルートも2月1日から最終便を1時間繰り上げ、16:30矢川駅発で泉地域を回って戻ってくる便を追加、夕方の富士見台、矢川駅から市役所・福祉会館へ行くものは休止したが苦情等は特になし。3月の利用

者数は504人、1日当たり19.4人。泉ルートも矢川駅発着の利用が主となっている。矢川・東ルートは2月1日から最終便の終点を⑱多摩蘭坂停留所から㉑三小まで延ばしましたが最終便の利用が一ヶ月通して9名というところで、これは2月が5名、1月が3名、12月が3名という状況。最終便の扱いについては検討が必要か。) 運行事業者の銀星交通さんから何か補足がありましたらお願いできればと思います。

【原田委員】銀星交通の原田でございます。今、事務局からお話がありましたように、青柳ルートにつきましては矢川駅発着便が30分に1本間隔での運行に変わりまして、ご利用が増えている状況でございます。4月に入りましてからも、今、大体1日50人を超えているというペースは維持しておりますので、このままの推移して行くのではないかと考えております。泉ルートにつきましては、正直なところ、年度を通して大きく変わっておらず、夕方の便など多少工夫はさせていただきましたが、利用者数に大きな変化は出てはいないという状況でございます。矢川・東ルートは、2月に最終便の終点を⑱多摩蘭坂から㉑第三小学校まで延ばしましたが、残念ながら、ご利用者増にはつながっていないというところなんです。私どもとしては、夕方の運行よりは朝の運行を工夫することで利用を少し伸ばせるのではないかとということで検討してみたいと考えておるところでございます。

【事務局】ありがとうございました。とりあえず報告(1)については、以上です。

【岡村会長】青柳ルートについては、ある程度当初の想定のような動きになっているということかと思えます。また気になることがございましたらまたご発言いただければと思います。それでは(2)、これはコミュニティバス「くにっこ」の利用状況についてお願いします。

(2) 国立市コミュニティバス「くにっこ」利用状況について

【事務局】(参考資料2で国立市コミュニティバス「くにっこ」の利用状況を報告：平成27年度は北ルートが約10万人、北西中ルートが約18万人、合計約28万人となった。最近5年間で約4.2万人増である。なお雨の日の朝の北ルートは満員の状況になることが多く、15分毎から12分毎にして1時間

に1本増回できないかというところで運行事業者の立川バスと調整中。また来年度春の導入を目途に交通系ICカード対応を検討中。なおICカード対応にした場合にはIC運賃175円、現金180円にする方向で調整中である)。

【岡村会長】では、こちらにつきまして、何か補足ですとか、ご発言ありますでしょうか。こちらもまたご発言がありましたら、後で承りたいと思います。利用者数が増えているということで、運行回数を増やしたということよりは、純増という理解でよろしいですね。

【事務局】そうですね。平成25年9月に北ルート of 始発を15分早めて、最終便を30分繰り下げたということがありましたが、基本的には大きな改正は実施しておりません。

【岡村会長】ありがとうございます。それでは(3)公共交通マップにつきまして、お願いします。

(3) くにたち公共交通マップについて

【事務局】(参考資料3でくにたち公共交通マップが刷り上がったことを報告：市民委員の皆様には校正の段階でご意見等を頂き、また、バス会社さんにも写真や画像をいただき、路線図も細かいところまでチェックしていただきました。誠にありがとうございました。)

【岡村会長】校正その他ご意見をいただいた方々、本当にありがとうございました。何か補足ですとか、ご発言ございますか。

【熊井委員】先ほど1,000部用意したというお話がありましたが、これをどう配るかというのはかなり大切なポイントだと思いますのでよくご検討いただきたい。増刷も必要だと思われるので対応をよろしくお願いします。

【岡村会長】それでは、早速、今日よりご活用いただければというふうに思います。私も活用します。それでは、(4)福祉交通検討部会のご報告をお願いします。

(4) 国立市地域公共交通会議福祉交通検討部会について

【事務局】（参考資料4で平成28年2月24日に開催された国立市地域公共交通会議福祉交通検討部会について報告：主に高齢者の移動についての課題を整理しご意見等を伺うことができた。）

【岡村会長】何かご発言ございますか。では、これも引き続きということでよろしいですね。それでは、(5)南部地域「くにっこミニ」試行運行に関する要望書にいて説明をお願いします。

(5) 南部地域「くにっこミニ」試行運行に関する要望書について

【事務局】（参考資料5で南部地域「くにっこミニ」試行運行に関する要望書について報告：これまでの意見交換会の経緯や、平成27年度11月に提案した谷保地域における試行運行ルート素案、要望書の内容を踏まえながら今後も意見交換を続けていくことを説明。）

【岡村会長】意見交換の経緯も含めてかなり具体的にご説明をいただき、現状の問題意識、それから地域の状況を共有した中で、かなり具体的な形で地域の方にも考えていただけたことは、率直に非常にいいかなと思っています。事務局にお伺いしますが、これはこの次の審議事項にかかわりますか。

【事務局】そうなります。

【岡村会長】それでは、この要望書そのものに関して何かご質問とか、ご発言があればここで受けて、具体的にこのルートをこうしたらいいのではないとかいう話は、後半またじっくり議論をいただければと思っています。それでは、この要望書につきまして何か。

【三好委員】この要望書にあるルートの利用者数の予測のようなところはどんな感じになっていきますか？地元の方とそのあたりについてどのように協議しているか教えてください。

【事務局】利用者の予測につきましては、以前の会議でもご報告しましたが、たとえば第三中学校周辺で停留所を仮に5箇所置いて、そこから道路上を200m歩く範囲で家が何件あるかをカウントし、世帯あたり人数の平均を掛けて居住者数を計算し、さらに高齢化率をかけることで65歳以上の方の人数を推計してみたことがあります。その結果、お住まいの方の人数が約

220人、高齢化率約21%から65歳以上の高齢者の数が40人強ぐらいですかね。その半数が仮に毎日病院に行くとしても、往復で1日40人、一般の方も多少利用していただければ60人とかになるかなと思いますが、毎日病院に行くことはないと思いますし。実際、この辺の家の方は一世帯に車を2台お持ちの方がかなりいらっしゃるのも事実でして、また、若いお母さん方は電動自転車で前後に子供さんを乗せて使われている。このような状況の中でくにっこミニ試行運行をどれだけ利用していただけるのかなというところで、実際の数字はなかなか悩ましいのかなというのが正直なところですよ。その辺も含めて意見交換会では何度もご説明はさせていただいておまして、陳情の皆さんには、毎日運行する必要はないのではないかとこのところまでは何とかご理解いただけたところかなと思っています。具体的な数字についてはちょっとまだわかりません。

【三好委員】具体的につかむのであれば、110戸あったら110戸を訪問して実際に利用するかどうかを聞けば、実数としてある程度の数字をつかむことはできるのかもしれないですね。

【事務局】あとは、ご要望等を伺う中で出てきた話で、朝の忙しい時間帯、たとえば8時半とか出かけたときにタクシーを呼ぶのだけれども、タクシーがなかなか来てもらえないようなときがあるということで、例えば三中周辺から8時とか8時半とか決まった時間に矢川駅まで必ず出るバスがあれば助かるというお話はいただいているところです。

【池田委員】三中周辺は結構自転車で回りますが「くにっこミニ」を走らせても、ほぼ使う人はいないと思いますよ。若い家族も多くお住まいです。

【岡村会長】去年の夏ごろだったかと思いますが、三中周辺については私も事務局と一緒に車で回ったことがありますので感触はわかります。多分、この後いろいろご議論があるかと思いますが、ピンポイントでご近所の方の需要を集約して乗合交通を利用するという、通常の路線バスなどとはちょっと違った乗合交通のあり方、例えば今日買い物に行くのでみんなで乗りあって行きましようと言って3人ぐらい集まるような形、これを週に3回やったら、ある程度、毎便一定数のお客さんが乗りあう形になるのではないかと。これなら可能性が見えてくるのかもしれない。ただ、Aさんは病院が

月曜で、Bさんは水曜でとか集約することが難しいと厳しい状況になる可能性がある。これは今後の議論の中でいろいろご意見などをいただければというところですよ。

【池田委員】 今回の要望書も含めて三中付近での検討が多い理由はなぜですか。

【岡村会長】 三中付近というよりは八ヶの下というのでしょうか、ある程度広い地域の方からご要望をいただいたものの、車両制限令などを考えると試行運行の車両が入っていけるのが三中周辺になってきた。それで地域の方も入って意見交換会を重ねる中でこういった要望書の形まですり合ってきたという感じと私は理解しているのですが、いかがでしょうか。

【事務局】 もともと交通不便地域の定義で、バス停から200メートル、駅から200メートルという定義でやりますと、三中周辺とインター周辺、あと府中市境の地域なのですが、一本松と言われるところが交通不便地域になっていまして、議会等でも三中周辺とインター周辺は結構言われていまして、そういった中で陳情もその辺の周辺の方から数回にわたって出てきており、市としても交通不便地域をなくしていきたいということで検討をしているという状況です。

【高橋委員】 先ほどから聞いていると、三中周辺や南部地域に対して悲観的なことばかりでね。基本的には、願望も入れて何とか公共交通機関を通していただきたいというのが地域の方々の考え方です。ですから、今現在、これから乗車される方がどのくらいいるかということについては、具体的な数字の把握は難しいかと思うのですが、将来的に何とかここに公共交通機関を通していただきたいというのが南部地域の皆さんの願望ということだと思います。

【岡村会長】 この件はこの後の審議事項に関連してくるかと思しますので、その中でいろいろご意見、ご議論、ご質問をいただければと思います。それでは、審議事項、国立市コミュニティワゴン試行運行見直しについて、ご説明をお願いします。

3. 審議事項

【事務局】（資料1で今年度のスケジュールと各ルートの見直し内容について説明）

【岡村会長】整理をしますと、この素案を今年度の後半に試行運行をしてみて、今年度いっぱい総括をするという理解でよろしいですね。

【事務局】はい。まず、青柳ルートの通勤対応につきましては、本日合意がいただければ6月1日から実施可能ではないかというご回答をいただいています。それから、先ほどの泉ルート組み込みの三中ルート（素案）と矢川・東ルート組み込み天神下ルート（素案）は9月を目標に考えております。ただ、改めてまた立川警察さんと警視庁さんで実査をしていただくなかで通れる道路などが変更になる可能性もありますが、いずれにしろ、この3年間の試行運行期間中に何らかをやりたいというところがございます。

【岡村会長】基本的には現状の車両と現状の乗務員さんのままで経費増は行わず、一番いい方法を考えてみたということで今日の素案を作っていたということだと思えます。これをもとに、次回、6月までの宿題をここで考えるということかと思えますので、率直にいろいろご意見をいただければと思えます。いかがでしょうか？

【熊井委員】参考資料1に戻りますが、青柳ルートの2月、3月が増えたという話が冒頭あったかと思えます。理由は、端的に言うと、シンプルにして30分に1本にしたからだと思っています。今回の提案は非常に複雑なので、私の率直な感想でいうと、これをやったところで客は伸びないと思います。ただ、この試行する目的は何なのかということ整理しておけばいいかなと思っていて、とにかくやれる選択肢を全部やると。どこに走るとどれくらい人が乗りそうかということ調べるという意味でやるならば、これも可能性としてありかなと思えますけど、これをやると多分混乱するので、利用者数は伸びないなというのがまず1つです。2点目が、くにごバスの交通系IC対応という話が出ていたんですが、ICを入れるのはくにごバスのみかということと、これにあわせて料金改定とかは考えないのか。というのは、IC対応にした際に、IC運賃を安くするのかなど今後、IC対応を図る議論の中ではそのあたりも詰めていったらどうか、ちょっとご提案です。

【事務局】熊井委員おっしゃるとおりで、青柳ルートにつきましては、幸いにも3月で一日当たりの利用者数の平均が50人を超えたということがあって、徐々に伸びつつあるということがございます。しかし、ほかの2ルート、泉ルート、矢川・東ルートについては、これは過去の地域公共交通会議で合意をいただいている評価基準で考えれば、本運行への以降は非常に難しいというところがございます。そういう中で、次のステップに進むために、やはり交通不便地域、今までやっていないところの需要がどれだけあるのかというのを、短期的な運行をもって把握していきたいというふうに考えているところです。それと、くにごバスの交通系ICカード対応につきましてはくにごバスのみの対応で、その際にはICカード運賃の設定や、消費税が10%に上がった場合の運賃設定も含めて検討していきたいと考えています。

【熊井委員】再確認になりますが、今後の方向性として、青柳ルートは一日当たり50人を超えてきたから、試行運行の継続という選択肢も出てきたのではないかと考えていると。しかし、泉ルートと矢川・東ルートは、多分ここにいらっしゃる皆さん共通認識だと思うのですが本運行への移行は厳しい。だから、できることはできるだけやって、次の可能性を探りたいという認識でよろしいですか。

【事務局】そのように考えていただいて結構だと思います。

【岡村会長】他の方はいかがでしょう。

【三好委員】これまでのお話は了解できる面が多々あったのですが、矢川・東ルートのなかで天神下ルートを組み込んで三中入口まで回ってみるような実験をやろうという提案、それは話としてわかるのですが、これをやる場合には、三中入口から例えば谷保駅へ行くような方もかなりいるのではないかとということで、前から申し上げているように、谷保駅北口に入れてしまったらどうでしょうか。いろんな形で試行してみたらいいのではないかと思うのが1つです。それから、2つ目。今回まだ具体的な提案は出ておりませんが甲州街道について。ここに停留所をつくっても、歩道が狭く待つ場所がないと私は思っております。あの狭い歩道は停留所を置くには大変厳しいといわざるを得ない。

【岡村会長】では、今の2点につきましてお願いします。

【事務局】谷保駅につきましては、再三ご要望いただいているところでございまして、その選択肢はないということではなくて、やはりもう少し今の状況をもって関係機関と詰めていきたいと思っております。次の会議までには整理をしてしかるべき提案をしていきたいと考えています。それと、甲州街道についてはおっしゃるとおりで、仮に停留所を設置できるとしても、大型車もかなりの台数が通るといった状況の中ではなかなか狭い歩道で待つことができるのかというところがございしますので、交通管理者としっかりと協議をしながら進めていきたいと思っております。

【岡村会長】甲州街道を横断できる箇所も限定されるので、停留所の利便性も考えながらじっくりと検討をお願いします。

【熊井委員】車両についてワゴン型車両以外のものを使うということは考えないということではよろしいですか。というのは、三中付近って正直乗らないと思うんですけど、先ほど高橋委員がおっしゃられたとおり、とにかく何か公共交通機関を通してもらいたい。シンボルといいますか、地域のために何か走っているということが非常に重要なので、一般のタクシー車両を使った乗合のようなものもあり得るわけです。経費になることは基本的にしないというなかでの検討とは思いますが、ひとつの可能性ということでのご提案です。

【事務局】今、おっしゃられたタクシー車両の活用というのは、セダン型の車で乗り合いをというご提案ですよね。新潟の三条市など、実験のような形でセダン型タクシーを活用した乗り合いをやっているところもあります。ただ、セダン型の車両での定時定路線の乗合運行ということについては、過去に乗り残しの対策を検討した際に、一般のセダン型のタクシーが相乗りやっているように見えることは誤解を招きかねないからできるだけ控えて欲しいというご意見を運輸局からいただいたりしたこともありましたので、アイデアは出して行きたいとは思いつつ、いろんな制約があることもご理解いただければと思います。今後、福祉的な交通についての検討を進める中で、例えば地元の自治会バス（地域バス）みたいな形であれば、できることがあるのではないかとかいうところも含めて、福祉交通検討部会

も立ち上げております。

【岡村会長】 いずれにしても現状の運転手さんと車両を使って今年度できることをやるというのがスタートで、一方で今のご議論を聞いて率直に思ったのは、来年度できることというのはまた変わってくるので、来年度できるいろいろな選択肢や可能性を見据えた上でやらないと、確かに予算額は同じだから、当初予定より余計にお金がかかるといえることはないものの、できることはやったけど、やっぱりだめだったので次の年度は何もやりませんという形が見えてしまうが、これは避けるべきかなと。とすると、率直に言って、本日提案いただいた泉ルートに三中ルートを組み込んだり、矢川・東ルートに天神下ルートを組み込んだりしたものは、よく見ると、現状とあまりかわっていない部分も多いのだが、複雑に見えてしまうところでわかりにくく使いにくいものになってしまうのではないか。例えば現状の車を使って、上手にちょっと間合いをつくっていただいて、現状のルートとつなげるということをせずに、もともとのご提案のように、完全に別々のルートという形でやりながら、何かできる方法があるかなという気もします。また、評価をするにあたって現状の2ルートの評価と新たに入れるこの地区のデータが混じってしまい、数字が出しにくくなることも危惧されます。三中付近を入れたがゆえに泉ルートのお客さんが減ったと言われちゃうと反論できない。では、もう1年やりましようと言っても試行運行は平成29年3月で終了ということになると、中途半端な形で今回の試行運行を終えるのはよくないのではないか。

【原田委員】 今日の議論をお聞きしていて、今までやってきて感じたこととかちょっとお話しさせていただきたいのですが、青柳にみのわ通りクリニックができて1年ちょっと経ちますが、ここも診療の科数を増やしまして患者数が約3倍に増えたそうです。それから、従業員の方が矢川から南武線に一駅乗り西国立から10分弱歩いて通勤しているという話も聞きました。我々も宣伝の方法を考えまして、国立あおやぎ苑関係ですかね、こちらの施設に、時刻表をつくって社員の方にもお渡しするなど利用客を増やすことができないか検討中です。ただ、最初からわかっていることなのですが、今日の資料にもありますが、以前運行していた「くにっこ」バスの

青柳・泉ルート、これは平成 26 年 4 月 15 日で休止になりましたが休止になる前から利用者数は減っており、利用者数が限定的であり収支率が厳しいこともわかっているのです。高橋委員がおっしゃった部分は非常に大事なことだと思うのですが、南部地域の公共交通機関をいかに確保するか。いろいろな考え方がありますが、便利なところに住んでいる方は自分たちのほうがずっと高いお金を払っているのだとか、向こうは税金が安いところに住んでいるのだからとか、そんな話も出ています。でも、やはり税金を払っているわけで、そこを市としても考えたいということで一生懸命やってきた。それに我々も協力して、今回も実は泉ルートと矢川・東ルート、三中周辺の市民も何とか支援をして、どのぐらいの利用があるのかって今後のためにデータ収集をするためにも今回いろいろな提案させていただいています。いずれにしろ、やるだけのことはやって、今後のためにということでさまざまなデータが得られれば市民のためになるのではないかと。試行運行最後の 1 年ですけど、皆さんの暖かいご支援をいただければ、我々もやりがいがありますので、最後まで頑張っていきたいと思えます。無事故で頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【岡村会長】 どうもありがとうございます。他はいかがでしょうか。

【熊井委員】 9月に福祉的な交通のワークショップ、市民意見募集というのがあるのですが、どのようなものをイメージされていますか。

【事務局】 現時点では、具体的に具体的なイメージがあるわけではないのですが、福祉的な交通を考えていく中で、ある程度具体的なシステムができてきた段階で市民の意見をいただきたいというふうに思っています。その方法なのですが、説明会をやってもほとんど人が集まらないんですね。ですので、ワークショップがいいのか、あるいは別のやり方がいいのか、ひょっとしたらシンポジウムになるのか何らかの形で市民の皆様のご意見をいただきたいというふうに考えている中で、こういった表現になっているというふうに思っただけであればということです。

【熊井委員】 今日傍聴席を見てもみますと、市議会議員の方が来られていますが、議会の方の協力というのも非常にこの分野で重要ですので、その際にはお声がけを、よろしくお願い致します。

【事務局】議会に対してもご報告をしていきたいと思っておりますし、また議員の方々もご協力いただきたいと思いますので、積極的にお声がけをしたいというふうに思っております。

【岡村会長】そうしますと、まず、次の6月までということでは、基本は現有の3台の車両を使う形で何らか、今日出てきた地区について対処はするという事について、全く検討する必要は無いという話はなかったと思っておりますので、それについてはおおむね合意いただけたというふうに思っております。それはいかがでしょうか。タイヤ、その他につきましては、引き続き検討ということで、ただ、今年度については現有の車両がありますので、例えば福祉的な交通でこの地域を何らか対処するとか、そういうのは少なくとも今年度はない、ということは少なくとも結果的に決まったということになるかと思っております。現有の車両を使いながら、その次の年に何らかのデータが得られるような形で、最大半年間実験をする、細かいタイヤ、系統の設定、日運行なのかどうかということについては、次までに具体的なご提案を事務局からいただくと、そういう流れになるかと思っております。何かつけ加えるとか、確認がございましたらご発言をお願いしたいと思います。よろしいですか。

【事務局】青柳ルート of 始発便の始点の変更について合意を頂けると助かります。

【岡村会長】これは提案どおりに皆様の合意を得られたということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【岡村会長】では、これは合意ということで、これは軽微な変更ということで速やかにということになります。ありがとうございました。そうしますと、これで一通り議事が終了しました。では、最後にその他についてお願いします。

4. その他

(1) 次回の日程について

【事務局】次回の日程なのですが6月を予定しているのですが具体的な日時については決定しておりません。とりあえず6月20日月曜日の10時から12

時で考えておりますがいかがでしょうか？

【岡村会長】 11時半までに終わるということであれば大丈夫です。

【事務局】 では開始を9時半とし、6月20日でお願いいたします。あわせて、福祉交通検討部会ですけれども、5月26日（木）、10時から12時というこ
とで考えております。その他については以上でございます。

【岡村会長】 ありがとうございます。最後に何かご発言ある方はいらっしゃいますか。

(2) その他

【三好委員】 本日いただいた「くにたち公共交通マップ」ですが、この地図を見ていて気がついたのでございますけれども、この地図よくできていて、近隣の市のコミュニティバスの運行なんかも載っている。これを見ますと、やっぱり「くにっこ」も立川とか府中の相互乗り入れとか、お互いにテリトリーを広げていくようなことも含めて検討を少しずつ始めていただきたいと思います。と思っております。

【岡村会長】 大変重要なご指摘だと思います。ほかいかがでしょうか。

【田崎委員】 改めてお礼なのですが、くにたち公共交通マップですが、最近つくっていただいている自治体さんも少ない中で、利用者目線に立ってわかりやすく見やすいものをつくっていただいて、バスの事業者としても非常にありがたいと思っております。この場をかりてお礼を申し上げたいと思えます。ありがとうございました。

【岡村会長】 それでは、事務局に進行を戻します。

【事務局】 それでは、以上で平成28年度第1回国立市地域公共交通会議を終了いたします。ありがとうございました。